

第 61 回シンポジウム開催にあたって

第 61 回シンポジウム 実行委員長 松田 健二

公益社団法人日本顕微鏡学会では、第 61 回シンポジウムを平成 30 年 11 月 1 日(木)～11 月 3 日(土)の 3 日間、富山国際会議場(富山県富山市)を会場に関西支部集会・学術講演会と合同で開催致します。

本シンポジウムでは、「新時代へと深化する顕微鏡学」をテーマに企画された各セッションにおきまして、生物・非生物、装置開発から応用解析まで幅広く最先端の研究知見を皆様にお届けします。第 1 日目は午後からの開催となります。講演に引き続き、一般市民も交えた企業展示に御出展の顕微鏡関連企業様から、やさしい初心者の方の皆様向けの講演として「顕微鏡法入門ゼミ」をしていただきます。顕微鏡関連企業様によります企業展示は第 1 日より 3 日間、開催していただく予定でございます。

第 2 日目に開催の基調講演は「生体分子機械の機能動作を活写する高速 AFM(仮)」という演題で金沢大学・安藤敏夫先生(医学生物系)に、高エネルギー加速器研究機構の三宅康博先生(材料装置系)には「高輝度ミュオンマイクロビームによる透過型ミュオン顕微鏡イメージングにむけて」という演題をお願いをいたしております。

第 2 日目には 4 つの分科会からの企画としまして、「FIB-SEM トモグラフィ法による形態解析の最前線」、「顕微鏡による格子欠陥解析の最前線」と「微生物と顕微鏡解析アプローチの多様性」等を、さらにポスター発表による討論と、優秀ポスター発表表彰を行います。引き続き優秀ポスター表彰者を囲んでの意見交換会に皆様をご招待いたしますので、専門分野の垣根を越えた学術交流をしていただければと存じます。

また、第 2 日目と第 3 日目にはランチョンセミナーも企業様に企画いただきましたので、ランチブレイクもアカデミックに有意義なひとときをお過ごし下さい。

第 3 日目には一般講演と学部学生・大学院生の応募から選ばれた「学生優秀演題」の口頭発表セッションを企画いたしました。加えて関西支部特別講演会を開催いたします。奮ってご参加下さい。富山は最も住みやすい県全国一位、自然の良さを代表するものとして“海の上にそびえる 3000m 級の連峰”があり、この景色は世界でもナポリと富山の二か所しかない絶景です。加えて 10 月下旬～11 月初旬は、立山・黒部アルペンルートの紅葉の見頃でもあります。実行委員一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。